

# 看護系大学生の看護職への自己実現の思いと自己効力感の関連性

道廣 陽介<sup>1)</sup>・森崎 直子<sup>1)</sup>・菅野 夏子<sup>1)</sup>・中木 里実<sup>1)</sup>  
藤田 さやか<sup>1)</sup>・兼澤 あゆみ<sup>1)</sup>・山口 恵子<sup>2)</sup>

## Self-realization beliefs among university nursing students and its relationship with self-efficacy

Yosuke Michihiro<sup>1)</sup>, Naoko Morisaki<sup>1)</sup>, Natsuko Sugano<sup>1)</sup>, Satomi Nakagi<sup>1)</sup>  
Sayaka Fujita<sup>1)</sup>, Ayumi Kanezawa<sup>1)</sup> & Keiko Yamaguchi<sup>2)</sup>

### 要旨

目的：看護系大学生の看護職への自己実現の思いと自己効力感の現状から関連性を明らかにすることを目的とした。

方法：令和3年と令和4年5月に、A大学看護学部看護学科の1～4年次生を対象に、WEBアンケート調査を実施した。調査内容は、学年、看護職への自己実現の思い、特性的自己効力感尺度とした。看護職への自己実現の思いは、【看護学の知識を増やしたい】、【看護師国家試験に合格できる】、【自己学習を十分にしている】、【看護職になりたい】の4つとした。看護職への自己実現の思いと調査年、学年、自己効力感との関連分析には、 $\chi^2$ 検定または一元配置分散分析を行った。

結果：合計回答数は374名であった。特性的自己効力感尺度の平均点は $72.6 \pm 11.2$ 点であった。看護職への自己実現の思いは、【看護師国家試験に合格できる】、および、【自己学習を十分にしている】で「そう思う」者が「どちらともいえない」者や「そう思わない」者に比べて有意に特性的自己効力感の得点が高かった ( $p < .01$ )。【看護職になりたい】で「そう思う」者が「どちらともいえない」者に比べて有意に特性的自己効力感の得点が高かった ( $p < .05$ )。

結論：看護系大学生の看護師国家試験に合格できる、自己学習を十分にしている、看護職になりたい、という看護職への自己実現の思いは、自己効力感と有意に関連していた。

キーワード：看護系大学生、自己実現、自己効力感

### Abstract

Purpose : This study aimed to investigate the relationship between self-efficacy and the desire for self-actualization in the nursing profession among university nursing students.

Methods : In May 2021 and May 2022, we conducted a web-based survey of first- to fourth-year students in the Department of Nursing at the School of Nursing, University A. The survey included the survey year, academic year, four items about self-actualization in the nursing profession, and a generalized self-efficacy scale. The relationship between the desire for self-actualization in the nursing profession and factors such as survey year, academic year, and self-efficacy was examined using a  $\chi^2$ -test and one-way ANOVA.

Results : The survey yielded responses from 374 students. The mean score on the generalized self-efficacy scale was  $72.6 \pm 11.2$ . Regarding the students' self-actualization and desire to become a nurse, those who "agreed" that they "can pass the national nursing examination" and that they "have done sufficient self-study" scored significantly higher on the generalized self-efficacy scale, compared with those who "neither agreed nor disagreed" and those who "disagreed" with these statements ( $p < .01$ ). Those who "agreed" with the statement "I want to be a nurse" scored significantly higher on the generalized self-efficacy scale compared with those who "neither agreed nor disagreed" ( $p < .05$ ).

Conclusion : University nursing students' desire for self-actualization in the nursing profession was significantly associated with their self-efficacy.

Keyword : nursing students, self-realization, self-efficacy

1) 姫路大学看護学部・Himeji University, School of Nursing

2) 元姫路大学看護学部・Former Himeji University, School of Nursing

## I. 緒言

近年の看護学生は、目的意識、動機づけの希薄な学生が増えている現状（大久保ら, 2011）があり、看護職が目的ではない学生の増加や自分で目標を立てられず主体的な学習態度に欠けるといった特徴があることが報告されている（安ヶ平ら, 2010）。そのため、看護基礎教育では、看護学生が看護職に就くという明確な目標をもち、目標を達成するために主体的に努力する態度を身につけることができる支援が必要と考える。

一般的に看護系大学生は看護師国家試験に合格し、看護職に就くことを目標としている。この目標を達成するには、看護の知識を修得したい、看護師国家試験に合格したい、看護職になりたい等の思いや意欲が必要である。看護基礎教育においては、学習意欲と自己効力感を相互に刺激し高めることが重要であるとされている（宮崎ら, 2019）。看護を学びたい、看護職になりたいという思いは、学習意欲にも通じるものであり（清水ら, 2015）、その思いは、自己効力感と関連している可能性があると考えられる。

自己効力感とは、ある結果を生み出すのに必要な行動をどの程度うまく行うことができるかという認知であると定義され（Bandura, 1977）、自己効力感が高いほど、目標としている行動に挑戦しようと努力する傾向にあるとされている（Bandura & Cervone, 1983）。看護学生が看護職を目標とすることは、学生自身の発達過程の中での成長欲求の1つである。心理臨床大辞典によるとA.H.Maslowは、成長欲求を自己実現に関係づけ、可能性のたえざる実現、使命の達成などであると定義している（氏原ら, 2005）。自己実現とは自己の発達の可能性を成就することであり（日本看護科学学会看護学学術用語検討委員会, 2011）、看護学生においては、看護職に就くという目標を成就することが自己実現にあたると考える。

そこで本研究では、看護系大学生の看護職への自己実現の思いと自己効力感の現状から関連性を明らかにすることを目的とした。

## II. 方法

### 1. 研究デザイン

無記名自記式質問紙による調査研究

### 2. 調査対象者

調査対象は、A大学看護学部看護学科令和3年の1～4年次生417名と令和4年の1～4年次生416名である。なお4年次生は該当年度に看護師国家試験受験予定者のみとし、在籍4年目であっても当該年度に看護

師国家試験を受験しない学生は、3年次生とした。

### 3. 調査方法

Webアンケート調査ソフトウェア（以下Googleフォーム）を使用し、無記名自記式質問紙調査を実施した。Googleフォームにアクセスする二次元バーコードを記載した書面を対象者に配布し、研究参加に同意した学生がアクセスして回答、送信することでデジタルデータを得た。

### 4. 調査期間

令和3年と令和4年の5月

### 5. 調査内容

#### 1) 属性

調査年、学年

#### 2) 看護職への自己実現の思い

【看護学の知識を増やしたいと思うか】、【看護師国家試験に合格できると思うか】、【自己学習を十分にしていると思うか】、【看護職になりたいと思うか】の4つとした。各項目の回答は「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の3件法から得た。

#### 3) 自己効力感

自己効力感の程度を評価するには、いくつかの尺度があるが、看護学生を対象とした自己効力感に関する先行研究では、成田らの特性的自己効力感尺度（成田ら, 1995）が使用されている。そのため、本研究においても自己効力感の測定には、成田らが開発した特性的自己効力感尺度を用いた。特性的自己効力感尺度は、23項目から構成された質問票である。質問項目は「自分が立てた計画は、うまくできる自信がある」「しなければならないことがあっても、なかなか取りかからない」「初めはうまくいかない仕事でも、できるまでやり続ける」等で、各質問への回答は「そう思う：5点」「まあそう思う：4点」「どちらともいえない：3点」「あまりそう思わない：2点」「そう思わない：1点」の5件法によって得られる。23項目のうち14項目は逆転項目であり、逆転換算し、総合得点で評価する。得点範囲は23点から115点であり、この得点が大きいほど自己効力感が高いことを表している。

### 6. 分析方法

全ての変数について記述統計量を算出した。看護職への自己実現の思いと調査年、学年との関連分析には $\chi^2$ 検定を行った。看護職への自己実現の思いと自己効力感との関連分析には、一元配置分散分析を用い、多重比較にはTukey検定を行った。全ての統計解析に

はIBM SPSS Statistics ver25を使用し、有意水準は5%未満とした。

## 7. 倫理的配慮

対象者には、研究目的、方法、研究参加の任意性、匿名性、個人情報の保護、参加の有無による不利益は生じないことを大学内ポータルシステム（A大学アクティブポータルサイト）の掲示板で説明した。また、調査への回答と送信をもって研究同意があるとみなした。送信されたデータは研究者のみに閲覧制限をした。なお本研究は、姫路大学看護学部研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：2021-01）。

## Ⅲ. 結果

対象者の属性、看護職への自己実現への思い、特性的自己効力感尺度の総得点を表1に示す。

### 1. 属性

本研究の回答数は令和3年226名（回収率60.4%）、令和4年148名（回収率39.6%）で、計374名であった。

学年は、1年次生103名（27.5%）、2年次生93名（24.9%）、3年次生77名（20.6%）、4年次生101名（27.0%）であった。

### 2. 看護職への自己実現の思い

【看護学の知識を増やしたい】は、「そう思う」が371名（99.2%）と最も多く、次いで「どちらともい

えない」が3名（0.8%）、「そう思わない」が0名（0%）の順であった。【看護師国家試験に合格できる】は、「どちらともいえない」が189名（50.5%）と最も多く、次いで「そう思う」が140名（37.4%）、「そう思わない」が45名（12.0%）の順であった。【自己学習を十分にしている】は、「そう思わない」が166名（44.4%）と最も多く、次いで「どちらともいえない」が136名（36.3%）、「そう思う」が72名（19.3%）の順であった。【看護職になりたい】は、「そう思う」が347名（92.8%）と最も多く、次いで「どちらともいえない」が20名（5.3%）、「そう思わない」が7名（1.9%）の順であった。

### 3. 自己効力感

特性的自己効力感尺度の総得点の範囲は、最小値39点から最大値106点であり、平均点は $72.6 \pm 11.2$ 点であった。特性的自己効力感尺度の各質問項目の得点の状況は、表2に示す。

### 4. 看護職への自己実現の思いと調査年、学年、自己効力感との関連性

看護職への自己実現の思いと調査年との関連は、【看護職になりたい】のみ有意差があり、令和3年が令和4年よりも「そう思わない」と回答した者が多かった（表3）。

看護職への自己実現の思いと学年との関連は、【自己学習を十分にしている】のみ有意差があり、4年次生とその他の学年では差があった。1から3年次生で

表1 属性、看護職への自己実現の思い、特性的自己効力感尺度

		N = 374
項 目	n (%) or M ± SD	
調査年	令和3年	226 (60.4)
	令和4年	148 (39.6)
学年	1年次生	103 (27.5)
	2年次生	93 (24.9)
	3年次生	77 (20.6)
	4年次生	101 (27.0)
看護職への自己実現の思い	そう思う	371 (99.2)
	看護学の知識を増やしたい	
	どちらともいえない	3 (0.8)
	そう思わない	0 (0.0)
	そう思う	140 (37.4)
	看護師国家試験に合格できる	
	どちらともいえない	189 (50.5)
	そう思わない	45 (12.0)
	そう思う	72 (19.3)
	自己学習を十分にしている	
	どちらともいえない	136 (36.3)
	そう思わない	166 (44.4)
	そう思う	347 (92.8)
	看護職になりたい	
	どちらともいえない	20 (5.3)
	そう思わない	7 (1.9)
特性的自己効力感尺度		72.6 ± 11.2

表2 特性的自己効力感尺度の得点

尺 度 項 目	M ± SD
1) 自分が立てた計画は、うまくできる自信がある	3.1 ± 0.9
*2) しなければならないことがあっても、なかなか取りかからない	2.8 ± 1.1
3) 初めはうまくいかない仕事でも、できるまでやり続ける	3.8 ± 0.9
*4) 新しい友達を作るのが苦手だ	3.0 ± 1.2
*5) 重要な目標を決めても、めったに成功しない	3.3 ± 0.9
*6) 何かを終える前にあきらめてしまう	3.5 ± 1.0
7) 会いたい人を見かけたら、向こうから来るのを待たないでその人の所へ行く	3.5 ± 1.2
*8) 困難に出会うのを避ける	2.8 ± 1.0
*9) 非常にややこしく見えることには、手を出そうとは思わない	2.6 ± 1.0
*10) 友達になりたい人でも、友達になるのが大変ならばすぐに止めてしまう	3.2 ± 1.0
11) 面白くないことをする時でも、それが終わるまでがんばる	3.8 ± 0.9
12) 何かをしようと思ったら、すぐにとりかかる	3.4 ± 1.0
*13) 新しいことを始めようと決めても、出だしてつまずくとすぐにあきらめてしまう	3.1 ± 1.0
14) 最初は友達になる気がしない人でも、すぐにあきらめないで友達になろうとする	3.2 ± 1.0
*15) 思いがけない問題が起こった時、それをうまく対処できない	2.9 ± 1.0
*16) 難しそうなことは、新たに学ぼうとは思わない	3.5 ± 0.9
17) 失敗すると、一生懸命やろうと思う	3.9 ± 1.0
*18) 人の集まりの中では、うまく振る舞えない	2.9 ± 1.2
*19) 何かしようとする解き、自分にそれができかどうか不安になる	2.0 ± 0.9
20) 人に頼らない方だ	3.1 ± 1.1
21) 私は自分から友達を作るのがうまい	2.9 ± 1.2
*22) すぐにあきらめてしまう	3.3 ± 1.1
*23) 人生で起きる問題の多くは処理できるとは思えない	3.2 ± 1.0

\*逆転項目

表3 看護職への自己実現の思いと調査年との関連性

		N = 374		
項 目		令和3年 (N = 226)	令和4年 (N = 148)	p
		n (%)	n (%)	
看護職への自己実現の思い	そう思う	224 (99.1)	147 (99.3)	.82
	看護学の知識を増やしたい			
	どちらともいえない	2 (0.9)	1 (0.7)	
	そう思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	
	そう思う	76 (33.6)	64 (43.2)	.09
	看護師国家試験に合格できる			
	どちらともいえない	118 (52.2)	71 (48.0)	
	そう思わない	32 (14.2)	13 (8.8)	
	そう思う	44 (19.5)	28 (18.9)	.63
	自己学習を十分にしている			
	どちらともいえない	78 (34.5)	58 (39.2)	
	そう思わない	104 (46.0)	62 (41.9)	
	そう思う	210 (92.9)	137 (92.6)	.04*
	看護職になりたい			
	どちらともいえない	9 (4.0)	11 (7.4)	
	そう思わない	7 (3.1)	0 (0.0)	

\*p &lt; .05

χ<sup>2</sup>検定

は「そう思わない」と回答した割合が最も多かったが、4年次生は「どちらともいえない」が56.4%と最も多かった(表4)。

看護職への自己実現の思いと特性的自己効力感尺度には有意差が認められた(表5)。

【看護学の知識を増やしたい】に、有意差は認められなかった。【看護師国家試験に合格できる】で「そう思う」者が「どちらともいえない」者や「そう思わ

ない」者に比べて有意に特性的自己効力感の得点が高かった(p<.01)。

【自己学習を十分にしている】で「そう思う」者が「どちらともいえない」者や「そう思わない」者に比べて有意に特性的自己効力感の得点が高かった(p<.01)。

【看護職になりたい】で「そう思う」者が「どちらともいえない」者に比べて有意に特性的自己効力感の得点が高かった(p<.01)。

表4 看護職への自己実現の思いと学年との関連性

N = 374							
項 目			1 年次生 (N = 103)	2 年次生 (N = 93)	3 年次生 (N = 77)	4 年次生 (N = 101)	p
			n (%)	n (%)	n (%)	n (%)	
看護職への自己実現の思い	看護学の知識を増やしたい	そう思う	102 (99.0)	91 (97.8)	77 (100.0)	101 (100.0)	.31
		どちらともいえない	1 ( 1.0)	2 ( 2.2)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	
		そう思わない	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	
	看護師国家試験に合格できる	そう思う	40 (38.8)	30 (32.3)	26 (33.8)	44 (43.6)	.05
		どちらともいえない	58 (56.3)	46 (49.5)	38 (49.4)	47 (46.5)	
		そう思わない	5 ( 4.9)	17 (18.3)	13 (16.9)	10 ( 9.9)	
	自己学習を十分にしている	そう思う	22 (21.4)	18 (19.4)	18 (23.4)	14 (13.9)	.00**
		どちらともいえない	33 (32.0)	25 (26.9)	21 (27.3)	57 (56.4)	
		そう思わない	48 (46.6)	50 (53.8)	38 (49.4)	30 (29.7)	
	看護職になりたい	そう思う	100 (97.1)	86 (92.5)	73 (94.8)	88 (87.1)	.11
		どちらともいえない	2 ( 1.9)	5 ( 5.4)	2 ( 2.6)	11 (10.9)	
		そう思わない	1 ( 1.0)	2 ( 2.2)	2 ( 2.6)	2 ( 2.0)	

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$  $\chi^2$ 検定

表5 看護職への自己実現の思いと特性的自己効力感尺度との関連性

N = 374						
項 目		特性的自己効力感尺度		F	p	
		Mean	SD			
看護職への自己実現の思い	看護学の知識を増やしたい	そう思う	72.7	11.2	0.95	.33
		どちらともいえない	62.3	7.0		
		そう思わない	0.0	0.0		
	看護師国家試験に合格できる	そう思う	76.0	10.6	19.08	.00**
		どちらともいえない	71.8	10.8		
		そう思わない	65.0	10.6		
	自己学習を十分にしている	そう思う	6.0	9.8	20.17	.00**
		どちらともいえない	71.8	10.7		
		そう思わない	65.0	1.3		
	看護職になりたい	そう思う	73.1	11.2	4.39	.01*
		どちらともいえない	67.1	9.2		
		そう思わない	65.0	17.1		

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ 

一元配置分散分析, Tukey

#### Ⅳ. 考察

##### 1. 看護系大学生の看護職への自己実現の思いの現状

本対象者では、看護学の知識を増やしたいと思う学生は99%を超えており、看護職になりたいと思う学生が約93%であった。この結果から対象学生のほとんどは、看護の知識の習得を望み、その知識を生かした職業としての看護職に就きたいと思っていることがいえる。その一方で、看護職になりたいと思わない者が約2%存在していた。看護職への関心を調査した先行研究では、看護職に就きたくない、看護職以外の職業に就きたいと考えている看護系大学生が2割程度いたことが報告されており（渡邊ら, 2019）、看護系大学生

を対象とした進学動機の調査では、受かりそうな学部・大学を選んだことや、とりあえず大学に進学したかったという消極的な理由があったことが報告されている（竹本, 2008）。そのため、看護系大学には、看護職になりたいと思わない学生が一定数いると考えられる。

【自己学習を十分にしている】では「どちらともいえない」、「そう思わない」学生が全体の80%以上を占めていた。看護学生の目標や発達課題は、看護職になるということであり、この目標を成就させたいと望みながらも看護職になることに向けた行動がとれず、自己学習がおこなえていない学生が多くいることが明らかになった。看護学生の特徴として主体的な学習態度

に欠けることが報告されており (安ヶ平ら, 2010), 看護職への自己実現の思いに沿わない行動をとる学生も多いと考えられる。看護師国家試験の対策に関する報告では, 大学に入学した時から国家試験対策は始まっているという認識のもと, 日頃から主体的に看護の専門職に就くための学習を進めていけるよう, 学生に関わることの必要性があるといわれている (藤澤ら, 2022)。看護学の知識を増やしたい思いをもつ学生は多いため, 学習機会や学習環境を提供する等, 入学時から自己学習の行動ができるよう支援をすることが必要であると考えられる。

そして, 前述のとおり, 80%以上が自己学習を十分にしていないという結果であった一方で, 看護師国家試験に合格できると思う学生が全体の37%を占める結果であったことが明らかになった。この結果から, 看護師国家試験に合格するのは難問でないと思っている学生がいることが推測される。第111回看護師国家試験の新卒者の合格率は96.5%で (厚生労働省, 2022), ここ数年の合格率の推移は95%程度あることから, 学生にとって高い合格率が容易であると思う原因ではないかと考える。しかしながら, 国家試験の高い合格率は, 看護学生が国家試験に向けて努力した結果であり, 簡単に合格できるものではない。そのため, 看護師国家試験に合格できると思う学生の思いも尊重しながら, 看護師国家試験を受験した体験者の経験を聞く等, 十分な学習をすることによって合格を達成できるという思考の転換を支援していく必要がある。

## 2. 看護系大学生の自己効力感の現状

先行研究での看護系大学生の特性的自己効力感尺度の得点結果は,  $72.4 \pm 9.7$ 点や (應戸ら, 2015),  $68.95 \pm 11.4$ 点 (高畑ら, 2015),  $67.28 \pm 12.21$ 点 (李ら, 2016) であったと報告されている。本調査における特性的自己効力感の得点は,  $72.6 \pm 11.2$ 点であり, 他の結果と比較してやや高い傾向である。対象学生は, 結果を生み出すのに必要な行動を上手く行うことができると認識している学生が多い集団であることが明らかになった。大学生や看護学生の自己効力感に関連する要因はいくつかあるが, 感動体験や達成動機, 成功体験 (畑下ら, 2021; 菊地ら, 2021; 沖野ら, 2003) によって高まることが報告されており, 過去のこのようなポジティブな体験が影響されていることが考えられる。

## 3. 看護職への自己実現の思いと関連する要因

看護職への自己実現の思いと学年との関連性では, 看護学の知識を増やしたい, 看護師国家試験に合格できる, 看護職になりたいという思いは, 学年によって差がないことが示唆され, 自己学習を十分にしている

という思いのみが, 4年次生とその他の学年で差がみられた。1から3年次生の約半数は自己学習を十分にしていないと思っているが, 4年次生では「どちらともいえない」が半数以上を占めており, やや自己学習をおこなっていると思う学生が増えている。看護大学生の自己学習能力を調査した研究では, 4年次生は学習における主体性や基礎学習技法の活用能力, 将来に対する前向きな姿勢が他の学年より高いことが報告されており (根岸ら, 2015), 最終年次の4年次生は一般的に他の学年よりも学習する姿勢が身につけていることが考えられる。しかし, 4年次生で自己学習を十分にしていると思う学生は, 約1割のみに留まっていることは, 卒業や国家試験の受験を間近に控えた状況であることを考慮すれば, 大きな課題であるといえる。

看護職への自己実現の思いのうち【看護師国家試験に合格できる】、【自己学習を十分にしている】、【看護職になりたい】と特性的自己効力感尺度に有意な関連性が認められ, 看護系大学生の看護職への自己実現の思いが自己効力感に関与していることが示された。【看護師国家試験に合格できる】で「そう思う」者が「どちらともいえない」者や「そう思わない」者に比べて有意に特性的自己効力感の得点が高く, 看護師国家試験の合格への思いと自己効力感との関連性が示された。看護師国家試験と自己効力感との関連性を調べた研究は皆無であるが, 自己効力感とは, ある結果を生み出すのに必要な行動をどの程度うまく行うことができるかという認知であり, 認知に影響を与える情報源のひとつに生理的感情的状態があるとされている。感情状態は, 個人のさまざまな面での自己効力に対する信念に, 幅広い効果を生み出すことができるとされており (Bandura, 1997), 看護師国家試験に合格できるという思いの信念が, 自己効力感に何らかの影響を及ぼしていることが考えられる。

今回の看護職への自己実現の思いの中で課題であるのは, 自己学習が十分にできていないことであった。【自己学習を十分にしている】で「そう思う」者が「どちらともいえない」者や「そう思わない」者に比べて有意に特性的自己効力感尺度の得点が高かった。看護学生の学習に関する自己効力感の研究では, 主体的学習活動は学習意欲および特性的自己効力感尺度の総得点と有意な相関があることが報告されている (宮崎ら, 2019)。さらに, 自己教育力と特性的自己効力感尺度の総得点は有意な相関があり, 特性的自己効力感が高い学生は, 自己教育力も高い傾向であることが報告されている (李ら, 2016)。そのため, 主体的に学習をする行動により, 自己学習を十分にしているという思いを得ることによって, 自己効力感を高められること

が期待できると考えられる。【看護職になりたい】で「そう思う」者が「どちらともいえない」者に比べて有意に特性的自己効力感尺度の得点が高かった。先行研究では、職業アイデンティティと特性的自己効力感には有意な相関が報告されている（藤本ら，2016；高畑ら，2015）。特性的自己効力感が高い学生はあらゆる物事に対して自信を持って取り組むことができ、肯定的な将来展望を持っていることから（藤本ら，2016），看護職になりたい自己実現の思いが、自信や意欲をもたらすだけでなく、学生の自己効力感を高める重要な影響要因の1つであると考えられる。

## V. 研究の限界と今後の課題

本研究の看護系大学生は、A大学看護学部看護学科の学生に限定されるため、一般化するには限界がある。また、看護職への自己実現に関する質問項目が限定的であったため、今後は広く解明していく必要がある。また、看護職への自己実現への思いを高める教育支援についても開発していきたいと考える。

## VI. 結論

看護系大学生の看護職になりたい、看護師国家試験に合格できる、自己学習を十分しているという看護職への自己実現への思いは、自己効力感と有意に関連していた。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました、A大学看護学部看護学科の学生の皆様に心より感謝いたします。

## 利益相反

本研究において、申告すべき利益相反はない。

## 引用・参考文献

- Bandura, A. (1977): "Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change". *Psychological Review* (American Psychological Association) 84 (2): 191-215.
- Bandura, A., & Cervone, D. (1983): Self-evaluative and self-efficacy mechanisms governing the motivational effects of goal systems. *Journal of Personality and Social Psychology*, 45 (5), 1017-1028.
- Bandura, A. (1997)／本明寛, 野口京子, 春木豊 (1997):

激動社会の中の自己効力 (初版), 金子書房, 東京, 3-6.

藤澤由香, 木地谷祐子, 蘇武彩加, 他 (2022): 本学の看護学部における看護師国家試験対策の取り組み－看護師国家試験対策内容の振り返りと学生アンケートの結果からの考察－, 岩手県立大学看護学部紀要, 24, 117-125.

藤本裕二, 藤野裕子, 松浦江美, 他 (2016): 看護大学生低学年の職業的アイデンティティの推移と特性的自己効力感及び職業モデルとの関連, 日本医学看護学教育学会誌, 25, 1, 38-43.

畑下真里奈, 瀬戸美奈子 (2012): 大学生における感動体験が自己効力感に及ぶ影響, 総合福祉科学研究, 3, 97-104.

菊地由美, 長澤清隆, 安藤郁子 (2021): 看護大学生の基礎看護学実習前後の自己効力感と達成動機の変化, 駒沢女子大学研究紀要, 4, 93-106.

厚生労働省 (2022): 第108回保健師国家試験、第105回助産師国家試験及び第111回看護師国家試験の合格発表 [https://www.mhlw.go.jp/general/sikaku/successlist/2022/siken03\\_04\\_05/about.html](https://www.mhlw.go.jp/general/sikaku/successlist/2022/siken03_04_05/about.html), 2022年10月23日.

李慧瑛, 下高原理恵, 緒方重光, 他 (2016): 学生の自己教育力と特性自己効力感の関連調査 実習でのリフレクティブサイクルを通じて, 看護教育, 57巻8号, 656-662.

宮崎千尋, 永嶋由理子 (2019): 看護職を目指す学生の主体的学習活動と学習意欲および自己効力感の検討－公立大学と私立大学の比較－, 福岡県立大学看護学研究紀要, 16, 25-34.

成田健一, 下仲順子, 中里克治, 他 (1995): 特性的自己効力感尺度の検討－生涯発達の利用可能性を探る－, 教育心理学研究, 43, 306-314.

根岸貴子, 柴田滋子, 藤井広美, 他 (2015): 看護大学生における学年ごとの自己学習力の特徴, 了徳寺大学研究紀要, 9, 193-201.

日本看護科学学会. 看護学学術用語検討委員会 (2011): 看護学を構成する重要な用語集, 自己実現, <https://scientific-nursing-terminology.org/quoteing/>, 2022年10月21日.

沖野良枝, 大山由紀子, 辻岡芳美, 他 (2003): 看護学生の臨地実習における態度関連要因と特性的自己効力感の変化, メンタルヘルスの社会学, 9, 25-33.

大久保暢子, 佐竹澄子, 大橋久美子, 他 (2011): 看護学導入時期の学生が感じる困難性の検討, 聖路加看護学会誌, 15 (1), 9-16.

應戸麻美, 中島富有子 (2015): 看護大学生の「対人不安 (シャイネス)」と「特性的自己効力感」の

- 実態, 日本健康医学会雑誌, 23 (4), 266-271.
- 氏原寛, 亀口徳治, 成田善弘, 他編 (2005): 心理臨床大辞典, 株式会社培風館, 東京, 182-183.
- 清水美恵, 古株ひろみ, 本田加奈子, 他 (2015): 看護学生の志望動機と実習達成感、看護職の職業アイデンティティとの関連, 人間看護学研究, 13, 1-8.
- 高畑正子, 大川明子, 梅田徳男 (2015): 看護大学生の特性的自己効力感が職業的アイデンティティに与える影響－学年間の比較－, 中京学院大学紀要, 5 (1), 27-39.
- 竹本由香里 (2008): 看護大学生の看護系大学への進学志望動機の検討, 宮城大学看護学部紀要, 11 (1), 13-20.
- 渡邊敦子, 日下和代, 向井京子, 他 (2019): 看護系大学生の学業への意識と精神的健康の実態および進路選択との関係, 共立女子大学・共立女子短期大学総合文化研究所紀要, 25, 67-74.
- 安ヶ平伸枝, 菱沼典子, 大久保暢子, 他 (2010): 基礎看護学担当教員の捉える学生の特徴と教授学習方法の工夫, 聖路加看護学会誌, 14 (2), 9-16.